

植物多様性センターの「キク科のふわふわ種」

武蔵野の草原を再現している武蔵野ゾーン高茎草地エリアに、ふわふわした綿毛が付いた瘦果(そうか)がいくつもみられます。これらは綿毛で風を受けて種を運ぶ(風散布)の植物たちです。特にキク科は冠毛という綿毛で飛ぶものが多く、一見同じように見えますがルーペで観察すると色や形などかなり個性的です。タイアザミの冠毛は羽毛状で風を受けやすくなっていますが、フジバカマの冠毛はシンプルで移動能力が低そうにみえます。これも絶滅危惧種になってしまった一因でしょうか？



タイアザミ: 当センターに多いアザミ。種が飛んでどんどん増える。



タイアザミの瘦果: 長い毛をよく見ると更に細かい毛がある。



オケラ: タイアザミほど細かい毛は目立たない。



フジバカマ: 冠毛の細かい毛はほとんどみえない。